

本 時 案 （第〇次の第〇時）		
目 標	<p>○</p> <p>・題材（単元）の目標の「関心・意欲・態度」, 「思考・判断・表現」, 「観察・実験の技能」, 「知識・理解」のうち, 本時の学習活動で目標としているものを具体的に書く。</p> <p>・ねらいを明確にした授業づくりのために一, 二の目標に絞り込む。</p> <p>文末表現例「～しようとする」「～できる」など [生徒の立場で書く]</p>	
学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価規準・方法など
[生徒の立場で書く]	[指導者の立場で書く]	[生徒の立場で書く]
1	<p>学習活動のねらい（生徒に提示する本時の目標）を, 実線で囲んで書く。</p>	
2	○	<p>観察・実験の場合 安全面への留意事項を書く。</p>
(1)	○	
(2)	○	○
<p>学習過程に沿って, 生徒の活動を具体的に書く。</p> <p>※文末表現例 ～を確かめる。 ～に気づく。 ～を知る。 ～を考える。 ～を発表する。 など</p>	<p>指導過程に沿って, 教師の指導・支援上の配慮事項などを書く。</p> <p>・指導の意図, 重点方法, 工夫など ・指導と評価の一体化を図る手だて ・生徒一人一人の学習への手だて ・予想される生徒の反応 ・板書計画や準備物などは別に欄を設けることもある。</p>	<p><観察></p> <p>・評価の観点, 規準, 方法などを具体的に書く。 ・本時の目標と対応させる。評価場面は1～2か所</p>
3	○	※評価方法例
4	<p>※「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への具体的な手だても記す。</p> <p>○</p>	<p>ワークシート 作品提出 小テスト 相互評価表 など</p>

※学習指導案作成上の留意事項

- 書式は固定的なものではない。生徒に提示する活動のねらいやそれを達成するための手だてを具体的に表現するのに適した書式を選択する。
- どのような書式を選択しても, 次の点は学習指導案から読み取れるようにする。
 - 生徒がどのような目標をもって活動すればよいのか, また, 生徒がその目標を達成できるように, 指導者がどのような手だてを講じているか。
 - 指導の中で評価がどのように位置付けられ, どのように活用されているか。
- 『評価規準の作成, 評価方法の工夫改善のための参考資料—高等学校理科—』（平成24年7月国立教育政策研究所）を参考にして, 生徒の発達の段階を踏まえ, 単元の指導のねらいを明確にするとともに, 評価規準を適切に設定することが望ましい。なお, 「十分満足できる」状況（A）と判断する際のキーワードとその具体的な姿の例や, ABCの評価の尺度を示すこともある。